

10月20日のウクライナ情報

安齋育郎

●トランスジェンダーでロシア人差別するウクライナのお姉さん(2022年10月19日)

<https://www.youtube.com/watch?v=Ko9WXVkh5RM>



●セルゲイ・スロビキン "ハルマゲドン" 軍陸軍大将(2022年10月19日)

スロビキンは、10月10日の着任初日にウクライナの電力インフラを攻撃したため、ハルマゲドン將軍というニックネームを得た。

https://www.youtube.com/watch?v=VIWhG_qR4MI



●トルコ曰く、「ウクライナに売った兵器は開戦前の契約」(2022年10月19日)

TB2 は当初、「ウクライナ抵抗の象徴」とまで言われたけど、1週間でほぼ撃ち落とされたと言う。(証拠は次の映像をどうぞ)

https://twitter.com/Jano661/status/1582401333344489473?s=20&t=RrXq_wzEYrGrrFCOmwZ-hHg



トルコ・イスタンブール(CNN)「あのぴかぴかの戦車は火だるまに。バイラクタル、それは新しい熱狂」——。そんな歌詞の歌がウクライナで人気を博している。同国の抵抗を象徴するシンボルの一つに

なっているドローン(無人機)にささげられたものだ。

「バイラクトル」の人気はすさまじく、ウクライナ人がこのトルコ製ドローンにちなんだ名前をペットにつけるほどだ。先月には首都キーウ(キエフ)の市長が、市内の動物園で生まれたばかりのキツネザルを「バイラクトル」と命名。外務省はキーウの警察犬訓練センターにいる子犬「バイラクトル」の写真をツイートした。

欧米やウクライナの当局者は、トルコの「バイラクトルTB2」がロシアの攻撃への抵抗に貢献していると称賛する。報道によると、英国のウォレス国防相は先月議員らに対し、同機がロシアの「火砲や補給線」に「弾薬を撃ち込んでいる」と指摘し、ロシアの進軍を遅らせ妨害するために「非常に重要」との見方を示した。

中高度長期耐久型(MALE)ドローン的一种であるTB2は、すでに長年にわたって実戦運用されてきた。トルコ軍は2014年からイラク北部とトルコで同機を使用。近年では、リビアやナゴルノ・カラバフの紛争で戦況を変えるのに一役買ったと評価されていた。ただ、ロシアの軍事目標を攻撃する映像がウクライナ軍によって公開され拡散したことで、同機は再び脚光を浴びている。

海軍分析センターのロシア研究部門で非常勤上級研究員を務めるサミュエル・ベンデット氏は、バイラクトルの成功の要因は「ロシア軍を狙う能力」のみにとどまらず、「広報戦略の勝利」でもあると語る。

ベンデット氏によると、バイラクトルは期待通りの性能を発揮したものの、「無敵ではない」という。オープンソースの証拠からは、一部は撃墜された可能性があることがうかがえる。

バイラクトルは「ウクライナ軍と民間人が非常にうまく進めているSNS作戦の一部だ」と同氏は指摘。バイラクトルによる攻撃の動画が拡散したことで、「大きな士気高揚と素晴らしい戦術的勝利」につながっているとの見方を示す。

TB2や他の無人航空機(UAV)の開発により、トルコはドローン業界の勢力圏で米国や中国、イスラエルと並ぶ位置に躍り出た。

ロシア、ウクライナ両国と防衛・経済面で緊密なトルコは、おそらく最も有名な輸出品の一つとなったバイラクトルを宣伝することに慎重な姿勢を見せる。トルコのドローン売却はウクライナ侵攻前からロシアにとって大きな収入の種となっており、ロシア大統領府のペスコフ報道官は昨年後半、トルコのドローンが地域の不安定化を招くと警告した。

トルコ高官は8日の記者会見で、ウクライナへのドローン売却についてロシアから繰り返し抗議を受けたと説明。「ロシアからは以前も今も抗議があるが、我々はすでに返答済みだ。これらは民間企業の製品であり、購入は戦争前に行われていた」と述べた。

ウクライナは19年、TB2を購入した最初の国となり、これまでに少なくとも36機を発注した。先月には、国防相が新たな納品の到着を明らかにした。

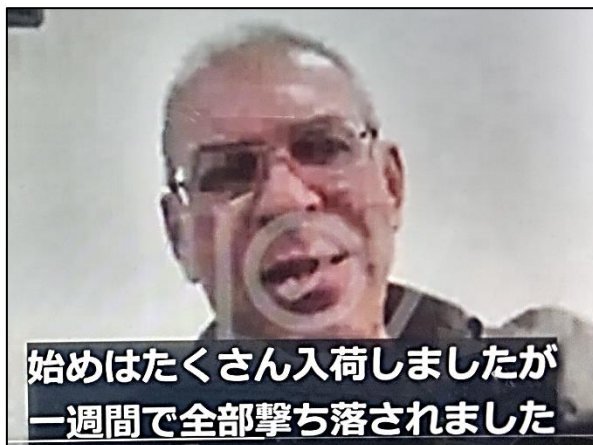
バイカル・テクノロジーの最高技術責任者(CTO)セルチュク・バイラクトル氏は、政治よりも自社の技術について熱心に語る。同氏はロシアとウクライナの重要な仲介役として浮上したトルコのエルドアン大統領の娘婿でもある。

バイラクトル氏は自身の名を冠したドローンにささげられた歌を聴いたことがあり、ウクライナのSNSで流行していることも知っているが、ウクライナ情勢に言及するときは慎重に言葉を選んだ。

●ロシアのいたずらハッカー(ボバン&レクサス)、ウクライナ国家安全保障庁要人になりすまし電話(2022年10月19日)

ウクライナの国家安全保障の偉い人が、トルコのドローン、バイラクタル TB2 の悪口をバラバラ話してしまった。今回の「犠牲者」はセルゲイ・パシンスキー氏。イタズラハッカーは最近お気に入りのマイケル・マクフォールになりすましています。マイケル・マクフォールはアメリカの政治学者で、専門はロシア政治。2011年12月から2014年まで、ロシア駐在アメリカ大使を務めた。

<https://twitter.com/Jano661/status/1582400456193880064?s=20&t=RrXqwzEYrGrrFCOmwZ-hHg>



●ドイツもウクライナ戦争に「参戦」して反国民的になった(2022年10月19日)

ドイツの警察。インフレとエネルギー危機に対する抗議活動をする市民にこの暴行。

https://twitter.com/Jano661/status/1582595920465899520?s=20&t=vKvgHgLR8ibOgP2t_gkM-g



●ヘルソンでの攻防(2022年10月19日)

ロシアの特別軍事作戦の司令官スロヴィキンが話した。現在のヘルソンの状況、ウクライナ軍の構成など。ヘルソンの住民の避難が始まったようです。

※安齋注:日本のマスコミ報道では、ウクライナ領土奪還の象徴みたいに報道されていますが、事実関係はこうしたロシア側からの情報と突き合わせて見た方が良いでしょうね。

Jano66ロシア情報

特別軍事作戦の将軍が初めて話した

- ◆ ヘルソン周辺が緊張状態で、難しい決断をしなければならない可能性がある。
- ◆ ウクライナ軍へ指令を出しているNATOが、ウクライナ兵士や市民の犠牲を無視したヘルソンへの攻撃を要求している。
- ◆ カコフカ水力発電所とヘルソンの街への大規模爆撃の計画。この攻撃は、大量の市民の犠牲が出る事はわかっている。
- ◆ ロシア軍はヘルソンエリアでこれらを押し戻す努力をしているが、ウクライナ政権は大量に予備兵を投入。投入された部隊は領土防衛隊だが、未熟で士気が低く、逃げ出した兵士を処刑する“バリア・スクアッド”も同時に配備されている。
- ◆ ロシア軍の戦術は、急いだ進軍ではなく、敵の攻撃を粉碎して行く事。これにより自軍の兵と市民の命を大量に救える
- ◆ 敵は犯罪政権であり、ウクライナの人々を死へ導いている。ウクライナの人々と我々はひとつ。NATOや西側から独立して友好的な関係を築きたい。

●EU 上級代表が差別発言「欧州は庭園、残りはジャングル」(2022年10月18日)

<https://www.youtube.com/watch?v=DTeTQqz5wCo>



●ウクライナエネルギー相:日本がインフラ直してくれる(2022年10月18日)

投稿者弁: ☹ ちょっと待って！クリミア橋爆破してロシアを小ばかにする切手発行→ロシア怒る→ロシアが報復でウクライナのインフラ破壊→日本が払う。

おかしくねーか？



●ロシアのドローン攻撃のつもりが自国攻撃に(2022年10月18日)

ウクライナの防空ミサイルが、10月17日(月)に知られるようになったロシアが放った Geran-2 カミカゼ・ドローンを迎撃しようとして、命中せずにキエフ(キーウ)の住宅に命中した。



●ロシア及びウクライナの兵の損失について(独立系メディア E-wave Tokyo、2022年10月18日)

9月16日時点での死者は、ロシア兵 5,937 人、ウクライナ兵約61,000人。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraine-war-situation-aow1724.htm?s=09>



●ウクライナでのロシア兵による性的暴行?(2022年10月16日)

※安齋注:良くも悪くも懲りずにこういうフェイク・ニュースを流すものです。以下の記事の後の資料をご覧ください。

(CNN) 紛争下の性的暴力を担当する国連事務総長特別代表は16日までに、ロシア軍はウクライナでレイプや性的暴行を「軍事戦略」の一環として実行しているとの見方を示した。

同代表のプラミラ・パッテン氏は、ウクライナで今年2月以降に起きたレイプや性的暴行は100件以上に達していることを国連が立証したと述べた。

100件以上との数字などについては、国連の専門家パネルによる先月の調査報告に一部基づくとした。この報告は、独立的な国際調査団が作成したもので、戦争犯罪の証拠を発見したと主張。レイプや子どもへの拷問などに言及したが、疑惑の事例の件数には具体的に触れなかった。

パッテン代表はAFP通信との会見で、この調査報告に比べより詳細な内容に踏み込み、「複数の女性が性機能改善薬を持っているロシア兵について証言しており、明らかに軍事戦略である」と断じた。

性的暴行の被害者の年齢については、国連が調査した限り、4歳から82歳までに及ぶと指摘。「レイプ、拷問や隔離を受けた子どもも多い」とつけ加えた。

CNNは同代表のこれら主張を独自には確認できていない。

パッテン氏はまた、これら被害者の人数は決して実情を反映するものではないともし、レイプなどは過少報告の性格を持つ犯罪であることに注意を向けた。

ウクライナの内務省幹部は今年6月、警察に届けられたロシア軍が犯した性的犯罪への申し立ては約50件と報告していた。

一方、ロシアのペスコフ大統領報道官は先月、ロシア軍によるウクライナでの戦争犯罪の疑惑について全て「虚偽」と突き放していた。

真相はどうだったのか？ デニソヴァによる作り話だった!!

ウクライナ政府は、ロシア兵によるレイプ事件は、**リュドミラ・デニソヴァによる作り話だった**として、残りの任期1年を待たずして解雇した。

デニソヴァが発信するロシア兵による性犯罪や小さい子供に対するレイプ事件については、**ウクライナ国内で事実関係が確認されず**、かえってウクライナに悪影響を与えるということでメディアやプロパガンダ制作関係者まで「ドン引きした」。



リュドミラ・デニソヴァ デマ情報への関与を認める

国会議員パヴェル・フロロフは、オンブズウーマンが性犯罪とされるものや「占領地での未成年者への強姦」には「不可解な点があったが、彼女は証拠を示せず」、ウクライナに害を及ぼしただけだったと語った。

●なりすまし電話に引っかかったウクライナ外相(再報、2022年10月18日)

https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1582264715644137472?t=CojZCXXf0aEBP0cIwQFmQ&s=09

「クリミアやロシアを攻撃しているのはウクライナである」マイケル・マクフォール元駐露米国大使からの電話だと思い込んでいるクレバ外相、イタズラ電話に引っかかり「ロシアへのテロ攻撃は私たちがやっている」と認める。



クレバ外相、ロシア・トゥデイの番組でも冷やかされる。

●中国が欧州への LNG 販売を停止(2022年10月17日)

自国の冬場のガスが十分に確保できるようにしたと報道される。

北京は国有の天然ガス輸入業者に対し、中国国内の需要に十分な供給を確保するため、ヨーロッパやアジアの買い手への転売を停止するよう指示したと報じられている。



北京は国有の天然ガス輸入業者に対し、中国国内の需要に十分な供給を確保するため、ヨーロッパやアジアの買い手への転売を停止するよう指示したと報じられている。

国家発展改革委員会は、中国のエネルギー大手であるペトロチャイナ、シノペック、中国海洋石油に対して、液化天然ガスの出荷を停止するよう要請したと、ブルームバーグが月曜日に関係者の話を引用して報じた。

北京が厳格なゼロ COVID 政策を実施した後の中国経済の減速は、現地のガス需要を減退させ、輸入業者が余った天然ガスを欧州やその他の地域に転売することになった。

ロシアから購入した不要な LNG を転売することで、エネルギー危機にある欧州に命綱をつけたのである。日本経済新聞の報道によると、8 月には推定 400 万トン以上の中国産 LNG が転売され、これは今年上半期の欧州の輸入量の約 7%に相当する。

ウクライナ侵攻以来、制裁とボイコットで欧米市場が打撃を受けた後、中国はロシアの燃料を安く買い叩いている。一時期、中国はロシアのサハリン 2 輸出プラントからの LNG 供給を 50%割引で手に

入れたことがある。

しかし、欧州のガス在庫がすぐに満杯になり、輸送コストが過去最高となったため、LNG 転売の魅力は薄れたと Bloomberg は述べている。

また、中国が冬の寒い時期にエネルギー不足に陥る可能性を回避するため、中国のガス供給が若干不足するとの予測も、この動きの引き金になる可能性があるという。

ドイツのような国々は、消費者に使用量の削減を訴え、ロシアによって断たれたガスの代替供給を確保しようと奔走した結果、冬のガス在庫目標を達成しそうな勢いである。

●南アのラマポーザ大統領、サウジアラビアの BRICS 入り支持(2022年10月16日)



サウジアラビアは、Brics ブロックへの参加に関心を示している。これは、南アフリカのシрил・ラマポーザ大統領が日曜日(10月16日)に 2 日間の予定で同国を公式訪問した際に明らかにしたものである。

「皇太子(ムハンマド・ビン・サルマン・ビン・アブドゥルアジーズ・アル・サウド首相)は、サウジアラビアが Brics の一員になることを望むと表明したが、彼らが唯一の国ではない」とラマポーザは述べ、日曜日に行われたメディアとの懇談会でこのことを確認した。

Brics は 2009 年に最初のサミットを開催し、サウジアラビアはその翌年に加盟した。このブロックは、一般に欧米経済の支配に代わるものと見なされてきた。「我々は、南アフリカ共和国の議長の下で、来年サミットを開催する Brics サミットでこの問題を検討する予定である。

「多くの国が Brics への加盟に向けてアプローチしており、我々は Brics のパートナーによって議論した上で加盟について決定すると答えた」。

●フランスのテレビ番組がウクライナへの武器供与についてアンケート調査(2022年10月18日)

アンケート参加者の 76.7%がウクライナへの武器提供をやめるべきと回答し、出演者の表情が凍る。

